



市民ミュージカル

君といた夏

Kiminatsu

03

黒田百合 〈演出家〉



「100人全員が、それぞれの飛び方で 一緒に大縄を飛ぶように」 5回目の「キミナツ」で見えるのは どんな景色？

2012年に第1回公演を上演した可児オリジナルの市民ミュージカル「君といた夏」(略称「キミナツ」)は今回で5回目を数えます。その年によって、集まった出演者100人に合わせながら台本や配役をアレンジし、まさに同じものは2つとない作品に仕上げます。さて今回はどんな仕上がりになるのか? 「キミナツ」全公演で演出を手がける黒田百合さんにお話を伺いました。

金沢を拠点に創作活動をされているようですが、最近はどうな活動をされていますか?

2024年の能登半島地震により金沢に移り住んだ被災者さんに向け、金沢市民芸術村でコミュニティの場所となるオープンサロンを開きました。アートを通して新しい価値を見出し、金沢市民とも繋がる「場」の提供です。コミュニティのない場所に移り住んだ20〜30人くらいの人たちが、毎週金曜日を心待ちにして集まっています。そして仮設住宅集会所で孤立をなくすために実施している「小さな上映会」のための毛糸座布団を作り、被災地支援を行っています。それぞれが出来ることを考え、孤立しないために繋がりと思っています。「誰も取り残さない」その精神は

アールのポリシーと同じです。また自分が主宰する劇団「夢宇人」(むうにん)は35周年を迎えました。チケット代の一部を義援金として寄付するなど、この2年は震災に寄り添いました。復興するまでずっとこの支援活動を続けたいと思っています。

「キミナツ」は今年で5回目の上演となります。配役や台本がその年によって変わるのも面白いですね。

2012年に「君といた夏」は作・瀬戸口郁音楽・上田亨で誕生しましたが、初演の時はオーディションに集まった人に役を当てはめていきました。トモコ役は当初、無かった役でしたが、オーディションにイメージがぴったりの女の子がいたので。また初演では「闇の王」でしたが、2015年にはイメージに合う人がいなかったため、「闇の女王たち」に代わりました。そんな風に出演者を見て自身が変えることは多々ありました。前回はコロナ禍でしたので、授業参観の際に歌う「わが校の星ヒロミくん」をカットしましたが、今回は復活しています。また少年5人とは話し合いながら、新たに隙間の台詞を埋めるようにしています。毎回、彼らと向き合いながら真摯に稽古を進め、最大限の力を出せるよう見守っ

ています。

市民ミュージカルは、参加する皆さんと観るお客様の両方への満足度が求められるところがあります。やり甲斐や難しさをどのように感じていますか?

目の前に小学校1年生から80歳まで100人いますが、ひとりひとり違っているのを、それを認めながらも、舞台で輝けるように考えています。まずは「安心、安全な場づくり」をすることでしょうか。こうして長い間続けると言うことは、この作品に対して参加者に愛情があるからですし、この作品に対する期待もありますので、頑張りたいです。「キミナツ」は長く続いてきた作品ですので、初演の時に、お母さんのおなかにいた子どもが、前回辺りから出演するようになりました。ある子はおばあちゃんと一緒に、あるいは母と長男、次男と一緒に参加しています。こうして人の成長を見守ることが出来て、幸せだなあとたびたび思います。青虫役から参加した子どもが、主役の少年になり、やがて不良中学生役になる。女子は蝶やてんとう虫だったのに、クラスメイト役になり、アイドルのキャンディーズになっていく。かつていい青年、きれいなお姉ちゃんのいい時期を、親戚のおばあちゃんのように見守れる…ホント幸せなことです。





黒田さんが演劇の世界で生きていくきっかけは何でしたか？

演劇を始めたきっかけは、高校の演劇部にいたクラスメイトに誘われたからです。実は今回も演出助手や、衣装を担当してくれる所村佳子さんは、演劇部の一年先輩なんです。可児市に呼んでくださったアーノ前館長の衛さんは、私が金沢市民芸術村ディレクター時代、ドラマ工房アドバイザーをしていて、その御縁もありこちらに寄せて頂きました。いろんな縁はつながっていますので、いつの時も互いを尊重し楽しさを共有していくことが大切です。この作品を通して「家族の再生」のち「友情」を観客の皆さまと共有できるよう頑張りたいです。

黒田さんが感じる演劇の一番の魅力はどんなところでしょうか？

先日、出演する子どもたちに言いました。私には「教えられること」と「教えられないこと」があると。演出ですから、「ここを直して」と言いつし、「こんな風に見えるよ」など様々なダメ出しをします。でもそれを聞いて、自分の中で消化して表現するのは自分自身であり、自分が気づき、自分から発信しないと「やらせた」になってしまいます。子どもたちに技術は求めません。でも舞台上では自分ではない役として、本物として舞台にいてほしい。それが出来たら多分、舞台だけじゃなくて、自分の人生も楽しんで生きられるように思うのです。自らが選り取り生きてほしいと願っています。

5回目の「キミナツ」、楽しみです。

毎回そうですが100人の出演者に寄り添いながら言わば大縄跳びのようなお稽古です。瀬戸口さんが作った縄に、上田さんが七色の魔法をかけてくれた。その綱を舞台監督が握り、100人全員の誰ひとりコケないよう見守り、激励していきます。跳び方はいろいろありますが、全員で跳ぶことに意味があるのです。どうか今回も全員が無事に跳べますように…そして舞台のパワーが観客に届きますように…そう願っています。

取材／福田明弘 協力／フリーペーパーMEG

市民ミュージカル 君といた夏 Kiminatsu

日時 2/28(土) 18:30開演
3/1(日) 14:00開演

会場 主劇場

料金 全席指定 2,000円 ※4才から入場可

発売中 託児申し込み 2/14(土)まで
※3/1(日)公演のみ



100人の市民でつくる可児オリジナルミュージカル。

舞台は昭和49年の可児。

それぞれに悩みを抱えた少年たちの小学校最後の夏休みの冒険物語。

仲間となると、喜びは大きくなり悲しみは小さくなった。

これは誰もが経験する出会いと別れ、家族と友情の物語。

【作・作詞】瀬戸口 郁

【作曲・音楽監督】上田 亨

【演出】黒田百合

【振付】神崎由布子

【歌唱指導】満田恵子

【あらすじ】

現代。東京で暮らす青木誠は、ある日家族を連れて久しぶりに里帰りする。少年時代の親友ミノルが亡くなったとの知らせが届いたからだ。ミノルが書いた小6時代の日記帳をきっかけに、誠の心に忘れかけていた遠い少年時代の記憶がよみがえる。

昭和49年夏一。マコト、ミノル、カンジ、ミツオの同級生4人は、それぞれ家族の問題を抱えながらも元気いっぱい、いつも一緒に遊んでいた。教室でのプロレスごっこ、里山での虫捕り、そして自分たちだけの秘密基地…。彼らは仲間の絆で固く結ばれていた。

そんなある日、秘密基地に“部外者”が現われる。この春に名古屋から転校してきたヒロミだ。成績優秀で女子にも人気のあるヒロミだが、その気取った雰囲気からクラスの男子からは嫌われ者だ。警戒心をあらわにするマコトたちに、ヒロミは思いもかけない話をもちかけてきた。

小学生最後の夏休み。

眩しい太陽の下で繰り広げられる、5人の少年たちの冒険物語！

江戸より続く、聴く歌舞伎

可児常磐津教室 巴瑠の会 第十二回 おさらい会

日時 2/7(土) 13:00

常磐津は歌舞伎の伴奏音楽として江戸時代に流行し、現代まで語り継がれています。巴瑠の会生徒による素浄瑠璃と講師やゲストによる演奏をお楽しみください。

【出演】可児常磐津教室 巴瑠の会 【指導】巴瑠幸太夫

会場 小劇場 料金 入場無料 主催:可児常磐津教室 巴瑠の会



音楽の都ウィーンで生まれた名曲たちの調べ

斎藤龍ピアノ・リサイタル ～楽都ウィーンの作曲家たち～

日時 2/14(土) 14:00

アーラの数々のプロジェクトに参加し、すっかりお馴染みとなったピアニスト斎藤龍が名曲の数々で音楽の都ウィーンへと誘う。

【プログラム】
モーツァルト／
ピアノ・ソナタ第11番「トルコ行進曲付き」
ベートーヴェン／
ピアノ・ソナタ第17番「テンペスト」ほか

会場 小劇場

料金 全席指定 2,000円
25才以下 1,000円 発売中



主催:RS MUSIK

歌舞伎の音楽、常磐津に注目！

歌舞伎とおしゃべりの会 2月の会 歌舞伎を聴く～常磐津の魅力～

日時 2/21(土) 13:30

歌舞伎や舞踊の音楽として演奏されている常磐津を舞台上で活躍するゲストによるお話と演奏で贅沢に学びます。

ご案内役は古典芸能解説の第一人者、葛西聖司さん。楽しい解説で、これから歌舞伎入門という方にもおススメです。

【特別出演】岸澤式松

会場 映像シアター

料金 全席指定 1,000円

発売中



ゲスト:常磐津巴瑠幸太夫



講師:葛西聖司

豪華ゲストによる、爆笑トークと絶品話芸

古典落語とトークで味わう 風間杜夫の名人会

日時 3/14(土) 14:00

毎年恒例「風間杜夫の名人会」。今回は落語界随一の大型ゲストが登場！元力士という異色の経歴を持つ、岐阜県出身の噺家・三遊亭歌武蔵師匠！巨軀から繰り出される話芸の数々は、まさに一撃必笑。今年度、注目の大一番です！

会場 小劇場

料金 全席指定 3,500円
25才以下 1,750円

発売中 託児申し込み
2/28(土)まで



風間杜夫



ゲスト:三遊亭歌武蔵

歌とハープが描く“日本とフランスの情景”

東日本大震災復興支援／能登半島被災者支援 祈りのコンサート2026 ～被災地へ届け、私たちは忘れない～

日時 3/8(日) 14:00

会場 主劇場 料金 全席指定 1,000円 ※4才から入場可

発売中 託児申し込み
2/22(日)まで

「祈りのコンサート」は、2011年の東日本大震災以降、被災地の復興へ祈りを込め、公演を続けてまいりました。14年目を迎える今回は、2024年の能登半島地震・豪雨災害への支援もあわせて行います。

石川県出身の熊田祥子が、フランスで共に学んだ高野麗音のハープと共に紡ぐ癒しの旋律。その音色にのせて、遠く離れた被災地へ「忘れない」という想いを届けます。皆様からお預かりする支援金は、被災者の「心のケア」に取り組む現地団体を通じ、被災地の中長期的な心の復興支援に役立てていただきます。

【プログラム】

【日本の情景と祈り】岡野貞一／朧月夜、山田耕筰／この道、武満徹／小さな空、團伊玖磨／花の街、坂本九／見上げてごらん夜の星を、東日本大震災復興支援ソング／花は咲く

【フランス・西洋の調べ】フォーレ／夢のあとに、ドビュッシー／星の夜、プーランク／愛の小径、ブッチーニ／歌劇「ジャンニ・スキッキ」より「私のお父さま」、ヘンデル／ハープ協奏曲、変ロ長調 HWV 294 ほか



熊田祥子(ソプラノ)



高野麗音(ハープ)

ナビゲーター:佐野秀典(作曲・編曲家)

【協賛】

株式会社カラビナ、株式会社トイ・ファーム、株式会社 ワンズ・ブランニング、岐阜県舞台設備管理事業協同組合、じゃぱんSANDWICH、ホテルルートイン可児、丸印印刷株式会社(敬称略・順不同)



アール・キネマ倶楽部 3月

『本日公休』

上映時間106分
2023年 / 台湾

常連客にハサミの音を響かせる、一人の理髪師の日常

日時 3/15(日)・3/16(月) 各日10:00 / 13:30

台中にある昔ながらの理髪店。女手ひとつで育て上げた3人の子供たちも既に独立し、店主のアールイさんは今日も一人店に立ち、常連客を相手にハサミの音を響かせます。ある日、離れた町から通ってくれていた常連客の“先生”が病の床に伏したことを知ったアールイさんは、店に「本日公休」の札を掲げて、最後の散髪のためにその町に向かうのですが…。

© 2023 Bole Film Co., Ltd. ASOBI Production Co., Ltd.
All Rights Reserved

会場 映像シアター

料金 全席指定 1,000円
25才以下 500円

発売中

0才から鑑賞いただける子ども向けクラシックコンサート

おやこでうたうコンサート

日時 3/22(日) 11:00

【プログラム】
バナナのおやこ
しあわせならてをたたこう
ぼよん行進曲 ほか

【出演】
趙知奈(ソプラノ)
福田紗永(クラリネット)
野口夏菜(ピアノ)



2024年度公演の様子

会場 音楽ロフト

料金 全席自由 800円 中学生以下 500円
※3才未満入場無料

発売中

主催:福田音楽事務所

あなたのそばに、本格クラシックコンサート

音楽家の集いvol.86
春うららのコンサート

日時 3/22(日) 16:00

会場 音楽ロフト

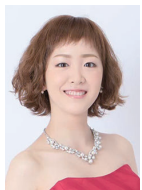
料金 全席自由 800円

発売中

主催:福田音楽事務所

【プログラム】
A.シュベート／アルペンリート
A.クック／3つの無垢な歌
A.ビーチ／子守唄
P.マスカーニ／アヴェマリア ほか

【出演】
趙知奈(ソプラノ)
福田紗永(クラリネット)
野口夏菜(ピアノ)

趙知奈
(ソプラノ)福田紗永
(クラリネット)野口夏菜
(ピアノ)

チェロの魅力を凝縮した、時を超えた名曲の旅

清水陽介リサイタル

日時 4/4(土) 14:00

今年度、アール未来の演奏家プロジェクトに参加した岐阜県出身の清水陽介と、津田裕也によるチェロとピアノの対話。親しみやすいトークと共にお届けします。

【プログラム】
サンサーンス／白鳥
ダンツイ／
「ドン・ジョヴァンニ」の主題による変奏曲
ベートーヴェン／
チェロとピアノのためのソナタ第3番 ほか

会場 小劇場

料金 全席指定 3,000円
25才以下 1,500円

発売日 2/14(土) 害50% 託児申し込み 3/21(土)まで



清水陽介(チェロ)



津田裕也(ピアノ)

チケット取扱 / 可児市文化創造センター・インフォメーション

ネットで
予約する

https://www.kpac.or.jp

24時間いつでも予約可能! ネットでのカード決済も可能。
お支払い・お受取りはセブンイレブンまたはアール窓口で!電話で
予約する

TEL.0574・60・3050

お支払い・お受取りはセブンイレブンまたはアール窓口で!

9:00~19:00

(火曜休館 / 祝日の場合は開館 翌平日休み)

窓口で
購入する

窓口でご利用可能なカード



- 発売日は窓口・ネットにて販売。電話予約は翌日からとなります。 ●表記のない公演の開場は開演30分前です。 ●振込による代金支払いもごさいます。
- 表記のない公演の未就学児の入場はご遠慮ください。 ●25才以下のチケット料金は各種割引サービスの対象外です。
- 公演当日の混雑緩和のため、チケットの事前引き取りにご協力ください。また、当日は余裕を持ってご来場をお願いします。

害50%

当日ハーフプライス対象

【当日ハーフプライス】
残席がある場合に限り公演日当日、
チケット料金が半額になります。

※インターネットは0時から。
窓口・電話は9時から。



チケットれすQ対象

【チケットれすQ】
インターネットでチケットを予約購入後、お持ちの
スマートフォン等によって QR コードを表示してご
入場いただけます。紙チケット発券が不要なため、
購入から入場までがスムーズに。

※このマークがある公演対象



託児サービス対象

【託児サービス】
公演鑑賞されるお客さまのお子さま
(6カ月~未就学児)をアール館内のキッ
ズルームにてお預かりいたします。

1名 500円

※要事前申込
※このマークがある公演対象

日	曜	開演 予定	終演 予定	催事名	入場	問合せ先
---	---	----------	----------	-----	----	------

主劇場(宇宙のホール)

1	日	14:00	16:00	市民ミュージカル「君といた夏」	詳細は P3	可児市文化創造センター	0574-60-3311
4・5	水・木	ⓧ14:00 ⓧ10:00	ⓧ16:30 ⓧ12:00	今渡幼稚園・大栄幼稚園 ひなまつり音楽会	関係者のみ	今渡幼稚園 田中康順	0574-25-8793
8	日	14:00	16:00	祈りのコンサート 2026 ～被災地へ届け、私たちは忘れない～	詳細は P4	可児市文化創造センター	0574-60-3311
15	日	①13:00 ②17:00	①15:00 ②19:00	HABURI ENTERTAINMENT 25th ANNIVERSARY	全席自由 2,500 円	早野寛太	080-2645-0468
18	水	10:00	15:00	生活協同組合コープぎふ 職員全員集会	関係者のみ	コープぎふ 機関運営 くらしの活動部	058-370-6875
20	金・祝	①11:45 ②16:15	①13:00 ②17:30	ヤマハ音楽教室発表会	無料	(株) 松栄堂楽器	0574-63-3151
22	日	16:00	18:00	L' espoir de ballet 第 14 回発表会	全席指定 990 円	レスポワールドゥバレエ	0574-42-9444
26	木	18:00	20:00	帝京大学可児高等学校中学校 吹奏楽部 第 14 回定期演奏会	要整理券	帝京大学可児 高等学校中学校	0574-64-3211
29	日	①13:00 ②16:00	①14:30 ②18:00	可茂ジュニアウィンドオーケストラ ～ Resonair ～ 第 7 回定期演奏会	無料 (要無料チケット)	山口	090-8471-0827

小劇場(虹のホール)

8	日	12:00	16:00	若い芽のピアノコンサート part19	無料	藤田晶子	090-9931-4667
14	土	14:00	15:45	古典落語とトークで味わう「風間杜夫の名人会」	詳細は P4	可児市文化創造センター	0574-60-3311
15	日	13:00	16:30	三橋音楽教室コンサート	関係者のみ	三橋	0568-61-5936
21	土	16:00	19:30	STEPPIN' IT UP	関係者のみ	田村怜央	080-9733-2890
22	日	13:00	16:00	水野かなピアノ教室発表会	無料	水野加菜	090-4237-9748
26	木	13:00	15:00	りんりん 鈴鈴の歌謡リサイタル ダンスと歌で～風が舞う～	無料	山田雅枝	070-2228-0093
28	土	14:00	16:00	Spring Concert	関係者のみ	渡辺恵美子	090-4850-8667
29	日	13:00	16:00	ピアノ発表会	関係者のみ	伊藤音楽教室	090-7959-1291

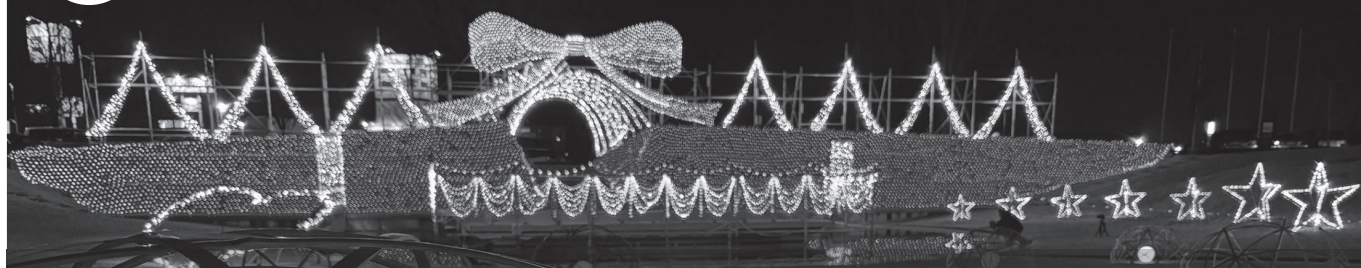
ギャラリー

4～8	水～日	9:00	17:00	可児市文化協会書道部作品展 初日 13:00 から 最終日 15:00 まで	無料	出口久美子	0574-65-9269
11～15	水～日	9:00	22:00	フォト可茂写真展 2026 初日 13:00 から 最終日 17:00 まで	無料	林秀元	0574-62-2934
18～22	水～日	10:00	17:00	第 31 回 可児アングル展 初日 13:00 から 最終日 15:00 まで	無料	中島繁昇	090-5456-4705
28～4/5	土～日	9:00	22:00	日本画個展 初日 13:00 から 最終日 15:00 まで	無料	中島弥生	0574-65-7966

- ・入場者多数の場合、定員以上はご入場いただけません。主催者都合により入場制限をする場合がありますので、整理券等の有無につきましては事前に主催者にご確認ください。
- ・主催者都合により発行後内容が変更になる場合があります。催しの詳細につきましては主催者にお問い合わせください。・劇場につきましては本番ご利用日のみ掲載しております。
- ・駐車場に限りがありますので、公共交通機関の使用等をお願い致します。・1/1 時点でのお申し込み状況、予定を掲載しています。



“光のリボン”が結ぶ、冬の思い出「アーラ・イルミネーション」開催



2025年12月5日から2026年1月12日までの24日間、「アーラ・イルミネーション」を開催しました。

石垣のアーチにかかる“光のリボン”には、訪れた皆さんの時間を結び、特別なひとときを届けたいという想いが込められています。一日一組限定で実施する点灯式は、より特別感のある体験として好評で、今年度は予約開始日に定員に達するなど、市民の皆さんの期待の高さがうかがえました。

アーラ・イルミネーションの魅力は、なんといっても“アットホームさ”です。点灯式では職員と一緒にカウントダウンを行い、参加者に点灯ボタンを押していただきます。その後は記念写真を撮影し、カードにしてプレゼント。手づくりの温かさを感じられる、このイベントならではの特別な体験となっています。参加の理由もさまざまで、「家族との思い出づくり」「ドッジボールチームの冬のイベントとして」「2012年から毎年楽しみにしているから」といった声が寄せられまし

た。イルミネーションが、世代や立場を超えて大切な時間を共有する場になっていることが伝わってきます。

また、ボランティア団体「木曾川トリベール」さんとのコラボも昨年度に続き実施しました。今年はドーム状の竹灯りに加え、にっこり笑顔が印象的な“こだま”も登場し、水と緑の広場をやさしく彩りました。

期間中の広場には、誕生日を祝うご家族やサンタの衣装で来場するグループなど、多くの方の笑顔があふれ、温かな時間が流れていました。「アーラ・イルミネーション」が地域の皆さんにとって心に残る冬の風物詩として親しまれていることを改めて実感するとともに、子どもたちの笑顔や「ありがとう」の声に触れるたびに、職員の心も温かく満たされる期間でした。

これからも皆さんの思い出や日々の楽しみに寄り添えるよう、「アーラ・イルミネーション」を続けていきたいと考えています。

(創造事業課 河合)

館長エッセイ

不易流行について

essay

可児市文化創造センター館長 籠橋義朗

「不易流行」とは、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅の間に体得した概念です。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」と説かれています。つまり、普遍的な真理を理解していなければ、物事の基礎を築くことはできない。そして時代の流れを取り入れなければ、新しい進展は生まれません。「不易(不変)」と「流行(変化)」の両方の視点を持つことで、真に価値のあるものが生み出されるという考え方です。

私たちは今、AI(人工知能)をはじめとする最新技術によって人間の活動が劇的に変化しつつある時代に生きています。私事ですが先日パソコンを新調しました。そしてそのパソコンを新たに設定し移行するために知人をお願いして作業をしてもらいました。その過程に立ち会っていましたが、その知識も技術もなく説明書すら理解できない私は傍観するしかありませんでした。スマホも電話とメールとカメラ機能だけで他の利用方法を知りません。もったいないことをしています。技術の進歩や考え方の変遷に対応するために自身の変化への対応が迫られています。

一方で、ハラスメント等の問題については、「人権を守り、尊重する」という基本に立ち返って考えていきたいと思います。「他人の嫌がることをしない」「世間さまに迷惑をかけない」「お天道様さまが見ている」といった言葉は、古くから語り継がれてきた戒めです。これらは決して新しい概念ではなく、長い歴史の中で磨かれ、今なお残されてきた価値観だと言えます。そうした格言や慣用語を大切にしながら、時代の変化に向き合っていくことが重要だと考えています。

アーラでは、市民ミュージカル『君といた夏』を半年かけて制作し、今月公演を迎えます。昭和49年の可児を舞台に、「家族の再生」「いのち」「友情」といった普遍的なものがテーマです。ミュージカルには、何年も変わらず愛される物語(不変)がありますが、同時に、今回のメンバーでしか作れない輝き(変化)もあります。「家族の再生」「いのち」「友情」といった普遍的なメッセージを新たなキミナツメンバーでお届けできたらと思っています。



可児から長岡、山形へー「シリーズ恋文vol.15」

「大宮のうちにありても あつき日をいかなる山か 君はこゆらむ」
この一首は、明治14年(1881)、明治天皇が秋田県二ツ井町を訪れた際、皇后から贈られた恋文に記されていた言葉です。この心温まるエピソードから100年以上の時を経て、秋田県二ツ井町では“恋文文化”を現代に甦らせる試みとして「全国恋文コンテスト」が始まりました。

1994年から2003年までの10年間に寄せられた恋文は、実に34,227通。そこには、一般の人々の切実な想い、人生の一場面、言葉に託された愛が詰まっています。それらの恋文を再構成し、「朗読」という形式で舞台化したのが〈シリーズ恋文〉です。2010年に始まった本シリーズは、今回で第15回を迎えます。秋田県二ツ井町で紡がれてきた恋文たちは、可児の地で舞台として結実し、今年はさらに可児市から長岡、山形へとその想いを広げていきました。

優れた恋文には、書き手の人生や物語が背景として立ち上がります。そして愛する人への強烈な想いが、観る者の心を静かに、そして確かに揺さぶります。

構成・演出はラサール石井さん。2年前に上演された作品を一部リニューアルし、中村雅俊さんと真野響子さんという豪華な顔合わせが再び実現しました。二度目の共演ということもあり、作品はより洗練され、深みを増した舞台へと進化していきました。

中村雅俊さんのダンディーさの中に垣間見えるおちゃめな一面は、観客の心をくすぐり、真野響子さんの凛とした佇まいと包容力は、舞台全体をやさしく包み込みます。長年にわたる共演を重ねてきた二人だからこそ信頼関係は、まるで長年連れ添った夫婦のような美しさを放ち、舞台上で静かに輝いていました。

朗読後のアフタートークでも、その息の合い方は変わりません。中村さんの大らかで温かな語り口と、真野さんの江戸っ子気質あふれる歯切れのよさが互いの魅力を引き立て合い、「俺たちの旅」にまつわるエピソードや、互いの失敗談、ご当地での縁ある人々の話など、いつまでも聞いていたくなる時間が流れていました。

明治天皇も、二ツ井町で生まれた一通の恋文が、100年以上の時を超え、朗読劇として舞台化され、可児、長岡、山形へと広がっていく未来を、きっと想像することはなかったでしょう。今回改めて、時空を超え、人々を魅了し続ける「恋文」の普遍的な力に気づかされました。是非、来年度の「シリーズ恋文」にもご期待ください。

(プロデューサー 澤村潤)



TEL 0574-63-5223

営業時間 9:00~20:00

アール主催・共催公演チケット提示で、公演日から1カ月間、飲食代が10%OFF (一部対象外公演あり)
※お一人様チケット1枚につき1回限り有効

可児市文化創造センター *ala*



2月は3、10、17、24日
3月は3、10、17、24、31日

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139
https://www.kpac.or.jp

開館時間/9:00~22:30 (火曜休館/祝日の場合は開館 翌平日休み)
TEL.0574-60-3311 FAX.0574-60-3312 ✉ ala_info.01@kpac.or.jp

